



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／荒川登志子(福岡県) 古賀市役所健康づくり課健康運動指導士
田中 崇詞(鳥取県) 米子市教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事

1 子育てを支援するサイト「ふくおか子育てパーク」

—IT を活用した次世代型家庭教育支援事業—

榎原 理香(福岡県篠栗町) 福岡県立社会教育総合センター 家庭教育相談員

携帯電話やパソコンを使って、いつでもどこでも子育て中の親がアクセスし活用できるWEBサイト。学びを支援する「WEB講座」や、グループ、イベント等の各種情報提供を行うほか、ブログや掲示板の機能を活かした双方向のやりとりで、読者同士の交流や情報交換が行える楽しいコーナーをたくさん設置している。また、先輩ママが答えるメール相談コーナーを設けたことは、気になることを気軽に聞いて不安をやわらげることにつながっている。行政が運営するサイトの可能性をどこまで広げられるかを探りながら、より多くの親たちが充実した子育てをするために活用してもらえよう、常に進化し続けるサイトを目指している。

2 子どもの居場所・高齢者の活動舞台の創造

—少子高齢化、過疎、環境の荒廃を見据えたまちづくり—

田中 時子(山口県岩国市美和町) 地域支援ネット「かぜ」事務局長

グループ活動を初めて11年目。事業は「地域支援ネット『かぜ』」、ミワ遊び塾、錦川ネイチャーゲームの会など発表者が所属する複数の団体関わっている。子どもの居場所の確保を目的としながら、環境を問い、過疎を問い、高齢者の活躍の舞台を作り出そうと工夫を続けてきた。歴史の伝承、文化活動の継承、キャンプ、野外活動、郷土料理指導などを手がけてきている。過疎の町を前提としながら「幼と老の共生」は少しずつ実現できている。

3 学・福連携、学・社連携による地域総ぐるみの「協育」の輪

—学童保育とつなぎ、学校を開放し、ジュニアリーダーや熟年を生かした通年の体験活動プログラム—

都甲 秀幸(大分県杵築市) 杵築市教育委員会・杵築中央公民館社会教育主事

合併前の旧山香町を対象とし、平成14年に着手された公民館、NPO、社会教育関係団体等をつないだ総合的子育て支援の「協育」構想。年間を通じた活動でプログラムの作成はNPO や旧山香町の地区公民館運営協議会が中心となっている。また、長期休暇中には毎日学校施設を開放し、地域のニーズに対応している。山香の子どもたちの参加率はほぼ100パーセントである。

4 総括討論



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／馬場 尚登(大分県) 大分県教育庁生涯学習課推進班社会教育主事
富原 邦彦(福岡県) 福岡県北九州教育事務所社会教育主事

1 多久聖廟「ジュニアガイド」にみる少年の地域貢献活動の成果と意義

—「総合的な学習」を生かしたふるさと文化財の研修と観光交流の実践—

田島 恭子(佐賀県多久市) (財)孔子の里事業担当

現在2期目の「ジュニアガイド」養成研修を実施中である。ガイドプログラムの参加者は小学校4年生以上27名。学校の総合的な学習を生かして、多久聖廟の歴史・文化ガイドの実践的知識・技術の研修を受講後、地域貢献活動の現場に出て、多久聖廟を訪れた人々を対象に子ども観光ガイドとして活躍している。自らの実践を通して、子どもたちのふるさとについての関心や誇りが向上し、この事業を育ててきた大人の「世話組織」も充実してきている。

2 少子化・高齢化・過疎化に対処する「地域一体」・「学社連携」型子育て支援の内容と方法

—「ゆすっ子クラブ」を核とした地域の相互支援システムの形成—

水足 浩(高知県梶原町) 「ゆすっ子クラブ」主任指導員

拠点を梶原小学校に置き、地域全体を巻き込んだ「ゆすっ子クラブ」は、障害のある子どもも受け入れる地域の子育て相互支援システムを目指している。少子化、高齢化、過疎化を視野に入れた保護者、住民、高校生が一体となっていくなう子育て支援プログラムである。平成17年度から創設、保護者の代表5名が理事となり、事業計画を立案。町内企業にも協力を呼びかけている。実施上のボランティアスタッフは20名(一般10名、高校生10名)、指導員3～5名である。

3 保育園・小学校・地域住民の合同開催による島の生涯学習・生涯スポーツフェスティバル

廣田 秀夫(長崎県西海市大瀬戸町) 松島地区公民館館長

人口700人足らずの離島の「融合」実践。小学校も、地区住民も「運動会」の実施が困難となり、全島一丸を目標とした「松島はずもう Day」を設定し、保育園、小学校、公民館の行事を組み合わせた「融合」事業を創設した。企画は「実行委員会」形式をとり、関係機関の代表者が知恵を寄せ合い、予算も持ち寄りで力を合わせた。会場は小学校、参加者が確保できたにとどまらず、島のにぎわいに貢献し、世代間の交流も進み、盆踊り等伝統文化の継承にも役立ち、世話役の負担も軽減された。

4 総括討論 12:00～12:30



第3 会場●2F 自由研修室

■司 会／ 岩切 義和(大分県) 大分県立香々地青少年の家社会教育主事
平地 佐代子(福岡県) 九州共立大学・九州女子大学・短期大学生涯学習研究センター所長補佐

1 「DV 被害者」の自立と就労支援活動の経過と成果

—民間サポート・センタープログラムの論理と方法—

田崎 エミ(佐賀県佐賀市) ワーキング・サポート・センター「黄色いりぼん」代表

サポート・センターの理事は全員企業家であり、男性が主体である。活動の領域は佐賀県全域、DV に関する啓発活動を実施するかたわら、DV 被害者の就労支援事業を行っている。地域活性化のための各種補助金の交付を受け、官民の協働を工夫しながら就労支援講座の開催、啓発バザーの実施などをおこなっているが、今後の課題は、企業の調査や「出前」啓発講習会の実現等である。活動にあたっては個人情報のお守り、名簿の安全管理、写真撮影の規制など被害者本人に不利益が及ばぬよう留意している。

2 NPO 法人「なはまちづくりネット」による新設公民館の受託経営の軌跡

—「一部業務受託」・「官民協働」・「社員の身分保障」・「専門研修」・「連携と地域サービス」の同時進行—

田端 温代(沖縄県那覇市) なはまちづくりネット代表

平成 17 年、那覇市7番目の設置となる「繁多川公民館」の業務を NPO「なはまちづくりネット」が受託。民の自由と弾力性を生かして、自治会、大学、子ども会、ふれあいプロジェクト等の事業と連携して業務を展開し、限られた予算を補い、地域との信頼関係を確立し、社会教育施設としての理念と実践のシステムを行政との協働の中で達成しつつある。

3 住民による住民のための異世代交流と子育て支援事業:「ちびっこ夢ランド」

—里づくり協議会「夢ランド十町」による古民家を活用した自主企画・自主運営—

岡本 尋子(熊本県和水町) 「ちびっこ夢ランド」事務局

地域住民総参加型の里づくり協議会「夢ランド十町」を結成。小学校の読み聞かせグループが発端で活動を始めた。その子育て支援部門が「ちびっこ夢ランド」である。毎月第3土曜日に古い民家を活用し、4世代の参加によって子どもの居場所を確保し、交流と活動を支援・促進している。内容は地域の人材を生かした読み聞かせ、モノづくり、おやつづくり、自然体験、文化体験など季節に応じた工夫を凝らしている。

4 総括討論



第4会場●4F 大研修室

■司 会／大草 秀幸(佐賀県) 佐賀県立女性センター・佐賀県立生涯学習センター館長
柴田 俊彦(山口県) 山口県プランナー養成セミナー卒業生

1 子どもの生活リズムを向上させるための実践報告「アンビシャスふくおか家庭教育宣言」

井上 幸繁(福岡県田川市) 田川市立田川中学校 PTA 会長

福岡県 PTA 連合会の「新家庭教育宣言」事業の一環として校区の総合的取り組みを目指して「学校応援団」、「学習応援団」、「子どもシンポジウム」など学校と地域と家庭を結ぶ取り組みを進めてきた。共有した認識は学力向上の前提に基本的な生活習慣の確立と学習規律の定着である。その結果、具体的取り組みとして(1)小中連携したあいさつ運動、(2)生活習慣の基本で継続して取り組み、成果の見えやすい課題の選択、(3)成果と課題について学級や家庭に情報を発信の3点を合意した。さまざまな領域で子どもの変容効果が見え始めたことが一番の成果である。

2 子どもの活動、大人の育成

—3年間の米子市子ども地域活動支援事業を経て—

ト蔵 久子、實近 孝子(鳥取県米子市) 米子市子ども地域活動支援事業実行委員会コーディネーター

米子市全域、総数 29カ所において3年間実施した「地域子ども教室」事業の総括報告である。「受託者」は官民協働の実行委員会方式をとり、活動の調整は「市民コーディネーター」が行った。活動の拠点を公民館とし、地区ごとの実行委員会も結成されたが、活動の内容・方法も多種多様で、市民コーディネーターは本事業の趣旨説明や調整に困難を極めた。しかし、3年を経て、複数の地区が自主的な報告書を作成し、19年度以降の独自活動につなげる等、子どもの活動に取り組む大人たちの「市民力」の向上が最大の成果と捉えている。

3 子育て支援の「子縁」が育む地域のネットワーク

—植木町菱形小学校の手作り「通学合宿」—

山下 耕一(熊本県植木町) 菱形小学校 PTA 会長

子どもの「居場所」事業の活動に当たって、通学合宿実行委員会を結成。学校と公民館を活動の拠点としたため、学社連携が進んだだけでなく、PTA、学校教職員、地域住民のネットワークが拡大・進化し、通学合宿を通して、子どもの体験活動を支えるとともに個人及び各種団体にまたがった地域の世代間交流が充実してきている。

4 総括討論



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／城谷登志江(福岡県) 桂川町立桂川東小学校校長
藤山 正明(鳥取県) 鳥取県教育委員会中具教育局生涯学習推進係長

1 NPO アンダンテ21による高津川を軸とした“ますだ圏域まちづくり”

—「全国源流シンポジウム」から「高津川大学」の設立まで—

廣兼 義明(島根県益田市) NPO アンダンテ21専務理事

益田市を貫流する高津川をテーマにした様々な事業の試みから NPO アンダンテ21が誕生した。川下り事業や景観調査に始まり、星空市、源流シンポと続き、まちづくりグループを法人化した。引き続き「どんぐりの森」づくり事業、「高津川大学」の設立に展開した。「大学」は川をテーマにしたまちづくりのための総合的学習であり、プロジェクトである。「川ガキ講座」、自然体験、広域観光ルートの調査、山口県錦川流域ネットとの交流等事業は盛り沢山である。

2 小・中・高の異校種 PTA ネットワーク「地域の宝」事業

児玉 隆志(大分県津久見市)異校種 PTA ネットワーク事業大分ブロック実行委員会議

津久見市立第1中学校 PTA 会長

中学校 PTA が核となり小学校、高校の PTA を巻き込んだ、青少年健全育成を「てこ」とした地域づくりを展開している。最大の事業は津久見市納涼花火大会(参加者およそ5万人)の翌日の清掃である。昨年は、小学校2校、中学校1校、高等学校1校の児童生徒および保護者 881 名で清掃を行った。この大会までに、中学校の PTA 会長が実行委員長として、地域のボランティア、各学校の校長・教頭先生等が一同に集まり、実行計画を練ってきた。これらの協働を通して、行政、保護者、学校、一般市民の間に、これまではなかった人間関係が広がり、地域づくりの貴重な一歩を踏み出した。

3 公民館の自治センター化と指定管理者制度の導入による諸問題の発生と対処法の分析

—広島県庄原市における公民館経営の合併後の変遷—

才木 雅仁(広島県庄原市) 庄原市教育委員会係長

庄原市の公民館経営は平成 2 年に行政の直営から「自主運営方式」に移行した。地域の諸団体の協働による責任主体:「自主運営協議会」は住民の自発的な活動を活性化したが、一方では公民館利用者の固定化や現代社会の『必要課題』に対する取り組みの不十分さを招いた。合併後は施設のネットワークも充実し、新しい活動目標を導入して地域住民の『生活の拠り所』を目指した。平成 18 年に至って公民館の『自治センター化』と『指定管理者制度』の導入が決定され、『生涯学習委託事業』制度が発足する。想定される課題は、設置目的の保障、質の低下の防止、料金の値上がりの抑制、専門性低下の防止などである。

4 ふるさとの里山再生・ビオトープづくり・芸術村の建設

—ヒュッテ桂谷ランプの宿を拠点とした生涯学習活動の展開—

佐伯 清美(山口県山口市) ヒュッテ桂谷ランプの宿・季刊「ふるさと紀行」管理・発行担当

畑山 静枝(山口県山口市) ヒュッテ桂谷ランプの宿・季刊「ふるさと紀行」企画運営・編集担当

1995 年、里山の再生に着手。再生地は山口市小郡上郷桂谷の約 5,000 坪の棚田跡地を中心とした森と林と禪定寺山。ボランティアの力を借りながら、ログハウス「ランプの宿」の建設、ビオトープの創造、芸術村の建設と 3 世代交流スペース「いろり庵」「やよいの館」の運営等に取り組んでいる。季刊誌「ふるさと紀行」とランプの宿を拠点とし、行政や企業との協働を模索しながら、高齢者の生き甲斐や健康づくり、ボランティア活動を通じた青少年の自然教育等を目指している。

5 総括討論



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／山田 浩史(広島県) 広島県教育委員会社会教育主事
梅原美佳子(長崎県) 長崎市中央公民館係長

1 「地域安全ボランティアふれあいパトロール北条」のまちづくり

—みんなで守る地域の安心・子どもの安全—

都田 幸民(鳥取県北栄町) 「ふれあいパトロール北条」事務局長

民間の主導で団体を結成し、パトロールの計画立案から運営まで会員が自主的に行ない、子どもの安全を守り、地域の安心を確保する安全パトロールを通したまちづくりをおこなっている。子どもの下校時および夜間に月12回程度のパトロールを実行し、あわせて地域安全教室の開催、情報共有化のためのブログの開設を並行実施している。

2 「小林おもしろ発見塾」の10年

大藪 良一(宮崎県小林市) 「小林おもしろ発見塾」塾長

「塾」は平成9年の設立。“生涯学習”と“地域づくり”をねらいとした団体である。会員40～50名。会費3,000円で月例会を実施。中央公民館を拠点とするが、活動は市内全域で展開。活動は単独で行うもの、行政その他の団体と協働で行うもの等多様。内容は、地域資源の再発見とその発表会の実施、ウォークラリー、研究成果のレポート化等多岐にわたる。

3 NPO 法人「地域サポート よしのねぎぼうず」の包括的地域サポートプロジェクト

—子育て・高齢者支援—青少年育成—男女共同参画—地域の安全—地域の祭り—多様な視点のネットワークづくり—

永山 恵子(鹿児島県鹿児島市吉野町) NPO 地域サポートよしのねぎぼうず理事長

「よしのねぎぼうず」は住民が参画しながら、地域を守り、活性化し、次世代へ繋いで行くための包括的な地域のサポートを目指している。活動分野は6分野6事業:子育て支援—学童保育「よしのっ子ジュニアクラブ」、青少年育成「よしのっ子ジュニア交流」、高齢者・子育て在宅支援「結ねつとよしの」、地域自主防犯組織「吉野おげんきかい」、地域文化創造「吉野兵六ゆめまつり」、惣菜製造・フリーマーケット「やまぼうし」である。年間を通し、各事業の責任者、活動サポーターをとりこみ総合的に展開している。

4 鹿町町教育ネットワーク(学社融合)推進事業

—保育所から高校まで、社会教育から福祉まで、学校・地域・家庭の3者連携の推進システム—

口石 裕輔(長崎県鹿町町) 鹿町町教育委員会社会教育主事

平成14年の学校週5日制の完全実施を機に「子どもの健全育成」、「地域住民の生涯学習」の推進を目的として町内の教育と福祉の関係者を網羅した「学社融合推進委員会」を結成。町内の保育所から高等学校関係者、各種社会教育関係団体および福祉分野の団体をメンバーとし、子どもの「生きる力」の育成、地域住民の生涯学習の推進、教職員の地域貢献、子育て環境の充実等を目指している。成果は、教育についての関心の向上、地域住民の自発的取り組みの発展にみられる。

5 総括討論



第3 会場●4F 視聴覚室

■司 会／石田由美子(山口県) 子育て支援グループてるてるぼうず代表
津幡 光浩(熊本県) 熊本県教育庁社会教育課社会教育主事

1 今こそ学校支援を！

—中学校への教育支援コーディネーター配置の目的と方法—

原田 尚(島根県雲南市) 雲南市教育委員会地域教育コーディネーター

配置の背景には子どもの学力、生活規律の低下と家庭・地域の教育力の低下、学校教育と社会教育の連携の必要などの認識がある。そこで子どもの教育に関わるそれぞれの単位組織の協働を促進する仲介者として「教育支援コーディネーター」機能を想定した。目的は行政における学社の一体的運営、家庭・学校・地域の連携・融合、具体的には中学校を拠点とした幼少年の一貫教育の推進、教員の意識改革等を目指している。教職の現場へ行政職を配置した「機能連携」が教育の一貫性を保障し、子どもの生活リズムの向上につながるか、否かは実践の成否にかかっている。

2 若者集団「大介」による地域の少年活動創造の挑戦

—一緒に学びながら、子どもたちが目指してくれる大人に—

三ツ田達彦(鳥取県湯梨浜町) 若者集団「大介」代表

中学校の同級生10人が5年前に若者集団「大介」を結成。学校週5日制の開始に伴い、週末の子どもの活動支援事業を開始した。現有メンバーは中学生、高校生を含め、拡大して25人。活動は小学生のあこがれの目標となり、地域の大人も「おやじグループ」を立ち上げる等、活動の影響は拡大している。活動の継続は「大介」メンバーの「やりたいことをやる」ことを原則とすることで担保されている。

3 ふれあい通学合宿「夢の体験塾」

—7泊8日間9回の実施を支えたもの、見えてきたもの—

竹井 章(福岡県岡垣町) 「夢の体験塾」実行委員長

主催の中核は「青少年健全育成町民会議」である。平成9年より今年で11年を迎え、平成18年度も年9回実施している。合宿の行程は7泊8日、参加対象は町内5つの小学校からの公募で、混成集団である。合宿には高齢者施設「若潮荘」を増築して使用している。最大の問題である「送迎」は紆余曲折を経て公用車を使用する。運転はシルバー人材センターへの委託である。特徴は合宿の全期間を通して宿泊・指導を担当する「塾長」の存在であろうか。その他の指導者は交代制のボランティアである。

4 「おおせとオヤジ夜究教室」

—家事を極めて男を磨く自立プログラム—

竹嶋 巖(長崎県西海市大瀬戸町) おおせとオヤジ夜究教室 事務部長

平成12年のスタート。男の自立を目指して「家事を極めて男を磨く」ことをテーマに料理、裁縫、農作業、身だしなみ、介護、環境対策等を活動プログラムに選んだ。特に料理については、そば打ちから始め、みそ汁、イタリア・フランス料理、現在は小学生との交流事業を契機に石釜パン焼き・ピザ焼きまでに挑戦。活動は月2回、会費月額千円、会員数23名。今後は環境問題にも領域を拡大し、団塊世代の活動モデルを提示したい。

5 総括討論



第4会場●4F 大研修室

■司 会／山崎 延男(鳥根県) 雲南市教育委員会派遣地域教育コーディネーター
北御門智子(佐賀県) 佐賀市教育委員会生涯学習課主査

1 各種グループ・サークルの地域ネットを活用した官民協働の多様な子育て支援プログラムの創造 —「おやこ劇場」から「わいわいフェスタ」まで—

岩藤 睦子(山口県長門市) NPO 法人長門大津おやこ劇場代表委員

1990 年子どもの感性を育てる環境の醸成を目指しておやこ劇場を設立。現在 NPO 法人化した。プロの劇団を呼んで鑑賞会を行うかたわら、サマーキャンプ、ネイチャーゲーム、舞台裏体験教室等の活動を展開した。さらには、市内20の支援センター・サークル団体をつないだ長門ファミリーネットワークを結成し、行政との協働を図りながら「わいわいフェスタ」など子育て支援イベントの企画にも参画している。

2 長期キャンプへの挑戦！今求められる自然体験のスタイル

—「ポーン太の森自然冒険塾」4年間の軌跡—

小野 豊徳(福岡県東峰村) 東峰村レクリエーション協会ポーン太の森自然冒険塾長

平成15年に開始した10年事業4年目の活動報告である。目的は魅力的な自然体験活動を通じて困難に打ち勝つ力を育てることである。冒険塾は7つの課題を設定。親子同一会場／別日程のキャンプ、英彦山山伏の修験道等地域資源を生かし、活動の記録はDVDにおさめた。サポートスタッフ、専門登山ガイドの導入等、安全のための人的な応援協力体制の確立に配慮した。

3 一村一校；「GUTS(ガッツ)日吉津っ子」の子育て支援

—子どもを育て、村を育てる学社連携プロジェクト—

小原 義人(鳥取県日吉津村) 学社連携推進事業研究会事務局

平成16年鳥取県教育委員会の委託事業を受け、村内に日吉津村学社連携推進事業研究会を発足。地域ぐるみで子どもを育てようという住民意識は高く、具体的に、家庭、学校、地域が目標を共有し、子育て支援の実践を通して、「いきいきむら日吉津」を目標とした村づくりを同時に進行させるべく村内の団体を結集し、3年をかけて「GUTS(ガッツ)日吉津っ子」という子育てプログラムを作成した。

3 NPO 法人「きよね夢てらす」の世代を超えた総合的まちづくりの方法

—生涯スポーツ・生涯学習・ボランティア活動による地域活力の創造—

江口 仁志(岡山県総社市) NPO 法人「きよね夢てらす」理事長

平成14年きよねスポーツクラブ設立、平成15年生涯学習施設；「きよね夢てらす」完成、平成16年 NPO 法人「きよね夢てらす」設立。完成した施設を拠点に当該 NPO は指定管理者として、スポーツ、文化、コミュニティ交流に重点を置き、生涯学習社会の実現を目標に、世代を超えた交流と活動の機会を工夫し、ボランティア活動、子育て支援などを組み合わせて地域社会づくりに邁進している。

4 総括討論